

令和6年度 小見川中学校の教育

1 教育の目的

- 人を育てる(人財育成) ～ 集団での活動をとおして ～
- 全ての教育活動は意図的・計画的であり、生徒を育てるための手段
 - ・授業、部活動、学校行事、清掃指導、給食指導、その他すべての活動を通して生徒を育てる。

財を遺すは下、仕事を遺すは中、人を遺すは上とする — 後藤新平 —

3人のレンガ職人

旅人が、建築現場で作業をしている人に「何をしているのか」と質問した。

- 1人目の作業員は「レンガを積んでいる」と答えた。
- 2人目の作業員は「壁を造っている」と答えた。
- 3人目の作業員は「大聖堂を造っている。神を讃えるためにね」と答えた。

※同じ仕事をしていても、その人の意識、どこを見ているかによって、心の満足度やその仕事の価値はまったく違ったものになってしまう。

※次世代を生きる人材を育てる教職という仕事に誇りとプライドを持ちたい!

(参考)

教育基本法

(教育の目的)

第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

(義務教育)

第五条

2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

2 すべては信頼関係から ～日々、信頼貯金を殖やしましょう～

○生徒からの信頼、同僚からの信頼、保護者・地域からの信頼

民は信なくんば立たず

弟子が政治の要諦について尋ねた

孔子：食料を豊富にし、軍事を充実させ、人民に信義をもたせることである。

弟子：やむを得ない事情でこの3つのうち1つを省くとしたら？

孔子：軍事だね。

弟子：残った2つのうち更に1つを省かなくてはいけないとしたら？

孔子：食料だね。どんな人間でもいつかは死ぬが、

人民に信義がなくては国家も社会も成り立たない。

— 論語より —

(管理職選考学習会より)

- 自分が職員からどう見られているか、時には意識してみる
 - ・ 10人中7人が・・・・
- 迎合してはダメ、かといって嫌われてもダメ (バランス感覚)
 - ・ 坊主憎けりゃ袈裟まで憎い。
- パワハラ、セクハラだって・・・・
 - ・ 「何をやったか」ではなく「誰がやったか」
 - ・ 「何を言ったか」ではなく「誰が言ったか」
- 例え正しい主張であったとしても、人に伝わらなくてはそれはただの自己満足。

3 まずは教師から

- 教師である前に、まず一人の自律・自立した社会人でありたい。
 - ・ あいさつ、お礼、出勤簿の押印、時間を守る、提出物の提出期限を守る、電話対応、その他 ※小見川中学校の電話対応 (別紙)
- 一人一人の生徒と「人対人」として誠実に向き合う人間性。
- 生徒の成長に喜びを感じる感性。
- 自ら成長しようとする意欲。

日々是好日

以下は、私の持論です。大学を卒業してそのまま先生になった人は基本的に「学校社会」しか知りません。「先生の常識は世間の非常識」という言葉も耳にしますが、20代前半で教師になり、生徒や保護者から先生、先生と呼ばれているうちに、自分でも気づかないうちに勘違いをしてしまう。ややもするとそんな側面はないでしょうか。学校という入れ物の中で、先生と生徒という関係で、立場や年齢が違えば、当然そこにはあるべき態度や言葉遣いは必要です。でもそれは子どもたちが将来、社会に出た時に必要だから指導するのであって、決して先生が偉いわけではありません。また、この勘違いの延長線上には、わいせつ・セクハラやパワハラの不祥事だったり、人権問題、保護者からの先生に対する苦情などの問題が発生することも想像されます。「人対人」という感覚で、生徒と誠実に向き合える先生でありたいと思います。

(令和3年度「校長室から40」)

4 本気の姿勢で！～目の前の生徒たちのために、まず教師が本気になる！～

本気

本気になると 世界が変わってくる

自分が変わってくる

変わってこなかったら まだ本気になっていない証拠だ

本気な恋 本気な仕事 ああ 人間一度

こいつを つかまんことには — 詩人 坂村真民 —

5 率先垂範

やって見せ、言ってみせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ
話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず
やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず

— 第26・27代連合艦隊司令官 山本五十六 —

6 職員研修 ～ まず自分から伸びようとする姿勢！ ～

太陽の徳、広大なりといえども、芽を出さんとする念慮、
育たんとする気力なきものは仕方なし

— 二宮尊徳 —

何よりも大切なことは指導者自身が輝いていること
輝いているためには、指導者が常に勉強している
そうすると、子どもたちもイキイキしてくる

— 藤重佳久 —

○人が育つ土壌づくり（学校として頑張ります）

・人材育成とは、人を育てることではなく、人が育つ土壌をつくること。

○若手職員研修の充実 ※本校のみならず教育界の課題

○「校長室から」の継続発行（4年目もがんばります）

○授業の充実 ※引き続き、ここは力を入れて頑張ってください。

・その授業（指導）で、生徒たちに何を身につけさせたいのか！

・自分の授業は生徒の立場で、わかりやすく魅力ある授業か！

○組織的な相互授業参観（本校のメリットを生かして）

・年間で、各自3回以上の授業参観を実施

・ベテランの先生により授業参観

・管理職等による授業参観（道徳、特活の授業を中心に）

○攻めの姿勢 ～ 攻めの気持ちは十分な準備から ～

・すべてにねらいや目的をもって！（意図的・計画的）

・準備をしっかりと行う → 心がやりたくなる

・教室に入る時の心境は？

○教科部会の充実（教科主任を中心に）

・「主体的、対話的で深い学び」を中心に据えて

・月曜日の有効活用

先生方の心は元気ですか

以前の職場で多くの学校を訪問させて頂いた折、「これから授業で教室に入ろうとする時、先生方の心はどんな状態ですか」とよく問いかけをさせて頂きました。「今日の授業ではこんなことをしよう」と、いい意味で「攻めの心」の状態なのか。それとも心が消極的で受け身になってしまっているのか。子どもたちにしてみれば、先生の気持ちが乗っていて意図的に仕掛けてくる授業の方が楽しいに決まっています。そして、言われ尽くされたことですが「攻めの心」を作るために大切なのは、やはり「授業準備」です。子どもたちの顔を思い浮かべながら、授業の流れを計画し準備をすれば、教室に入る時には自然と心が攻めに転じます。

7 学級経営の充実

○学級担任の基本は生徒に付く

○がんばろうとする心がイキイキとするクラス

・がんばろうとしている子、普通の子がイキイキできる学級づくりを！

○担任のビジョン

- ・どんなクラスにしたいのか！ そのために何をするのか。
- ・一人一人の生徒にとって居場所のあるクラス

○歌声の響くクラス → 歌声の響く学校

○道徳と特活の充実

- ・令和4・5・6年度の小見川中学校の研究の中心
- ・今年度も道徳の時間を帯では取らない。

(共通理解・共通実践をお願いします)

- ・毎朝の呼名をお願いします！（朝の呼名が学級経営の第一歩）
- ・朝自習の時間は無言で学級全体が集中した状態をつくってください。
- ・授業はチャイムとともに始め、チャイムとともに終わるようにしてください。
- ・5時間目スタート時の教室の確認をお願いします。
- ・朝、生徒が登校してきたときに気持ちのいい教室をお願いします。

黒板はクラスの鏡

今日は黒板がキレイですね。

黒板がキレイですと、
教師として身が引きしまる思いがしますよ。

— 森 信三 —

(令和4年度「校長室から36」)

8 生徒指導の徹底

○あいさつ、黙動清掃、くつをそろえる（部活動等でも同じ指導を）

※タイミングを見て、くり返し、くり返し、指導をお願いします。

※今年度は、さらにレベルアップを図りたい。

○生徒指導部会の（定期的な）開催

- ・月曜日の有効活用

○サポートルームとスクールカウンセラーの有効活用

○報告・連絡・相談・確認の徹底

日々是好日 ～ 一部省略 ～

ここで、4月1日にもお話をさせて頂いた「あいさつ・黙動清掃・くつをそろえる」ことの2つのねらいについて再確認します。一つ目のねらいは、なんと言っても、生徒たちがやがて社会に出た時にこれらの習慣を身につけていてほしいからです。詳細は後期始業式でも全校生徒に直接話をしましたのでここでは省略します。

そして2つ目は、「生徒指導の徹底」です。ひとつの見方として、私は学校には教師集団と生徒集団の「力のせめぎ合い」があると考えます。生徒集団の勢いが教師集団の勢いを上回り、教師の指導が生徒に入らない、教師のコントロールがきかなくなった状態が「荒れた学校」です。私は中学生だからただ言うことをきかせようとか、個性を否定する気はまったくありません。でも、成長途中であるが故に彼らの心の中には、かっこをつけてみたい、おしゃれをしてみたい、時には先生に反抗的な態度を取ってみたいという気持ちがあるのも事実です。そして集団には「数の原理」が働きますので、先生がそういった生徒の心をうまくコントロールしてあげられないとあっという間にその数は増えていきます。人生というスパンで見た時に、中学生の時期は何にでも一生懸命に取り組んで、感動や時には挫折感を味わってほしいと私は考えます。でも、荒れた学校では前向きな雰囲気は否定され、学校全体が澁んだような空気になります。正統派の子どもが潰され、いじめだっけで起こりやすくなります。そんな学校にしないために、教師集団と生徒集団の力のせめぎ合いの攻防線（最前線）をどこに引くのか？「あいさつ・黙動清掃・くつをそろえる」のラインで、私たち職員が本気で生徒にぶつかっていけば、学校が大きく傾くことはありません。むしろ生徒たちのために建設的な指導がいくらでもできます。引き続き職員の方のご理解とご協力をよろしくお願いします。

(令和4年度「校長室から25」)

9 部活動の充実

○部活動も生徒を育てるための手段

- ・勝つことが最終目的ではなく、そこに向かわせる指導過程の充実を。
- ・生徒たちの達成感と存在感
- ・生徒個々の持っている力を発揮させる指導。
- ・地域移行、クラブチームとのバランス

10 学校行事の充実

○学年経営や学級経営に行事を利用するという発想で！

- ・入学式、修学旅行、遠足、体育祭、合唱コンクール、3年生を送る会、卒業式、学校公開、その他

11 情報の共有化（見える化）

○学校内の情報を見える化し、共有する。

○学年間の壁の解消 ※今年度もここは強力的に改善したい。

※その人の前で言いにくいようなことは、たといその人がいない場所でも言わないようにしなければならぬ。(森鷗外)

12 ICT化と働き方改革の推進

○校務分掌への位置づけ

- ・働き方改革の推進
- ・教師のICT活用の推進（ベテランの先生も積極的にお願いします）

13 保健室と事務室との連携

○保健室

- ・生徒指導、教育相談を中心にSC、学年・学級との連携強化
- 事務室
 - ・校内運営や分掌業務において、事務室と連携を図り、職員それぞれが責任と役割を果たすことにより、業務改善と学校の事務機能の強化を目指す。

14 地域に開かれた学校

- 学校ホームページの内容の充実と継続
- 年間2回の学校公開と部活動公開
- 学校評議員会の活用
- 学校評価アンケートの活用
- 内側にも開かれた学校（透明性のある組織） ※学年間の壁の解消

15 モラルアップ委員会と不祥事の根絶

- モラルアップ委員会の定期的な開催と内容の充実
- 風通しの良い職場作り
 - ・言わないことが不親切
- 自分のこととして受け止める
- 想像力を働かせる
- 人はいくつかの条件が重なれば、誰でも悪いことをしてしまう可能性がある！

16 小見川中学校職員として

- 歴史と伝統のある小見川中学校の職員であることに誇りをもってほしい！
- 自ら、仕事そのものにおもしろさを見出す！

ハーツバーグ氏は工場労働者から会社重役にいたるあらゆる階層の人たち数千人の仕事に対する態度を研究した。仕事への意欲をもっとも強くかき立てる要件として、この行動科学者が発見したのは何であったか？金？労働条件？諸手当？いずれも否。最大の要件は、仕事そのものだったのである。仕事がおもしろければ、誰でも仕事をしたがりに、立派にやり遂げようと意欲を燃やす。

知好楽

子曰く、これを知る者は、これを好む者に如かず
これを好む者は、これを楽しむ者に如かず

— 論語より —

(令和4年度「校長室から12」)

- 組織（小見川中）は人（職員）を成長させる道具である
 - ・自分の成長のために、小見川中を活用してください。

組織に働く者が成長するとき、組織はさらに多くをなしとげる。しかも、組織が真剣さ、真摯さ、意識、能力において成長するほど、そこに働く者が人として成長する。

— ドラッカー —